

# 学校運営協議会&地域学校協働活動だより

## ( 第3回合同会の内容報告 )

南関町教育委員会教育課



### 会長(谷口教育長)あいさつ

第3回南関町学校運営協議会全体会と第3回地域学校協働活動運営委員会(学校応援団)との合同会議を、2月9日(木)に「南の関うから館」で開催し、学校ごとの協議とその報告会がありました。内容は、各学校の本年度の取組みの成果と課題及び次年度への志向を出し合い、次年度の取組みにつなげるものでしたので、その内容をまとめてみました。

今日は、うれしいニュースの紹介と次年度への方向性という点で話をさせていただきます。

まず、南関中学校の生徒による「南関町喜ばせ隊」の活動が、令和4年度の「くまもとの笑顔・未来を創る児童生徒表彰」で「未来を作る児童生徒43人」として特別賞の受賞をしました。内容的には社会福祉活動という部分で、地域の一人暮らしの高齢者の方々への暑中見舞いのはがきを出したり、子供会行事のボランティアスタッフ・町の文化祭・関所まつり等のスタッフの一員として活動してくれたことが高い評価を得たようです。

もう一つは、この3年余りのコロナ禍により学校行事の中止や延期が繰り返され、体験活動等も制限されてきましたが、皆様のお力添えで、できる行事は工夫しながら実施してきたところです。

今、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進に取り組んでいますが、なかなか子どもの姿が見えにくい部分があります。この会でも小学校の児童会とか中学校の生徒会の子どもも交えての協議ができればよりよいものとなっていくかと思えます。学校によっては、生徒会や児童会を活かしながらこの合同会で決まった内容について子どもベースにおろして自分たちでできる部分を工夫している学校もあると聞いています。合同会のスタンスも子どもが行動する・主体となっていくようにし、4部会の取組みやそれぞれの事業実施についても子ども主体というところで工夫していただくと将来をしっかりと背負っていく子どもたちが育っていくのではないかと思います。今日の協議もそういう部分で検討していただくととてもありがたいと思っています。

## 学校ごとの協議（本年度の成果と課題及び次年度への志向）

## ＜成果＞

- ・本年度は予算があったので業者が入り1年間通して快適な状態で過ごせた。
- ・一小の卒業生で中学校2年生になる子が、「南関町を喜ばせ隊」の隊員として一小の文化祭のお手伝いを1日中してくれた。
- ・低学年で実施した町探検では、町の方々とふれ合うことができ児童の情操教育につながるので、今後も必要な取り組みだと実感している。
- ・健康チェックカードの記入結果がほとんど○になってきており、生活習慣の見直しに意義がある。
- ・プールの水質維持のためEM菌を鈴木さんにお世話になった。
- ・SCの巡回は、第3者の意見が入ることで家庭との間の緩和剤になっている。
- ・学校運営協議会委員の授業参観で、子どもと先生の信頼関係が感じられる。
- ・少人数での㊟をローテーション方式に実施されて、課題が解決されている。

## ＜課題＞

- ・本年度は予算があったので業間通して快適な状態で過ごせたが、来年度は予算次第では、整備の維持が気になる。
- ・コロナウイルス感染症の影響で、不登校や登校しぶりが若干あった。
- ・環境面では、環境整備の維持が課題である。
- ・「南関みどりの推進協議会」からの寄贈されたプール東側の木がかなり大きくなり近隣住宅への影響があるため伐採の方向を考えている。
- ・P数が減少してきているので、あいさつ運動への対応が困難な地区がある。
- ・資源回収では、児童がいない地域もあり周知することが難しくなってきた。
- ・休日の過ごし方がゲーム中心になってきている現状がある。
- ・年長児で、親が寝た後にスマホのロックを解除し、午前1時半までゲーム等をしている子どももいた。
- ・草刈り等の課題がある。対策として、コンクリート化を町に要望する。

## ＜次年度への志向＞

- ・プールは、設備上問題がないので次年度も使用予定である。
- ・プール東側の木の伐採を考えている。

## 学校ごとの協議（本年度の成果と課題及び次年度への志向）

## &lt;成果&gt;

## (学力向上部)

・学校では児童の家族にコロナウイルス感染症等が発生し児童が出席停止となった場合タブレットを家に持ち帰らせ(4～6年生)授業を行っている。

## (心づくり部)

・3月1日(3・4校時)に久重北公民館でホタル音頭を体験した後、地域の清掃活動を行う。校内でも4・5・6年生でホタル音頭を披露してほしい。

・緑の少年団の活動を行っている。

・2月22日にさかき診療所と花植えを行う。

・エコア熊本の協力で蛍の幼虫を飼育し琵琶瀬川に放流している。予算がかかるため今後の課題でもありエコア熊本の協力を得たい。

## (体づくり部)

・アンケートで朝ごはんを食べるは、4点中3.8となった。

・県から優秀校として2年連続で表彰されている。

・朝のランニングを続けているが個人差もある。

・水泳の学習は、B&Gまで送迎していただいて水泳教室を実施していただいている。

・学校の田んぼで地域の方のご指導で稲作体験をし、婦人会の方の協力を得て餅づくりを行っている。

## (環境充実部)

・草刈りは、多数の地域のボランティアさんの協力を得ることができた。

・正門周辺の整備を釘崎収吾さんをお願いしたところ、学校にはない機械を地域の方からお借りして作業をしていただいた。

・家庭でのタブレット使用に課題があるため、家族も一緒に参加できるタブレットの講習会を予定し、日時を教えたり町教委から講師を紹介してほしい。

・家庭でタブレットの使い方がわからない場合は、学校に来て先生に相談してほしい。

・二小の電気系配線等が悪い。

・蛍の幼虫の飼育には予算がかかるため今後の課題でもありエコア熊本の協力を得たい。

・ホタル音頭を児童に指導すると1回でバッチリおぼえる。30～40年続いているので今後もつなげてほしい。

・草刈りボランティアさんを募集する。

## &lt;次年度への志向&gt;

・除草作業への地域の方々の協力は、今後も引き続きお願いしたい。

## 学校ごとの協議（本年度の成果と課題及び次年度への志向）

## &lt;成果&gt;

## （学力向上部）

- ・高学年は、タブレットを用いてタイピング練習や調べ学習等に取り組んでいる。
- ・欠席した児童に対して、その日に学校で学習した内容をタブレットを用いて伝えている。

## （心づくり部）

- ・ノーメディアデーは、家族ぐるみでノーメディアの時間に違うことをするなど、ノーメディアの取り組みが十分にできた。
- ・2月の健やか集会では、児童に対して健康面や受けやすい被害についての講話を実施し児童に周知させることができた。
- ・欠席が多い児童も、少しずつ登校できるようになってきている。

## （体づくり部）

- ・今は、ほとんどの児童が朝食をとってきているので、今後は朝食メニューに関する情報を提供していきたい。
- ・持久走大会の前には、業間の時間を使って進んで練習に取り組むようになった。

## &lt;課題&gt;

## （学力向上部）

- ・家庭でも効果的にタブレットが使用できるよう、授業参観等で保護者にもタブレットの使い方の研修会を実施する必要がある。

## （心づくり部）

- ・タブレットの使用により生活習慣に被害が起こらないよう、保護者への研修会が必要である。

## （体づくり部）

- ・朝食の内容を考える必要がある。
- ・コロナウイルス感染症が終息しつつあり、外で遊ぶ時間が少しずつ増えてきたが、まだ足りない。
- ・他の学年の児童とは遊ばない。
- ・3月の遠足では、地区ごとの昼食の時間になるので、昼食後の休憩時間に異年齢での遊びができればと思う。

## （環境充実部）

- ・児童数が減少するとともに保護者数も減少しているので、美化作業等は区長さんを通して地域の方々をお願いできればと思う。
- ・美化作業は、防災無線を使って地域の方々にも協力の依頼を行う。
- ・学校林の整備ができていないので3月にもう一度地域の方のご協力をいただきながら美化作業を実施したい。

## &lt;次年度への志向&gt;

- ・授業参観日に保護者を対象にタブレットの研修を実施したい。
- ・縦割り班での活動を活かしていく。
- ・地域の方を巻き込んでの協働活動を実践していく。
- ・学校林の杉の木で、親子の活動としてベンチづくりができればと思う。無理なら委託する。
- ・ここ数年実施できていなかった収穫祭を実施する。
- ・運動会での在校生や卒業生・保護者・地域の方など全員でのダンスを復活させる。

## 学校ごとの協議（本年度の成果と課題及び次年度への志向）

## ＜成果＞

- ・美化作業では、美化作業支援ポスターを貼ったりし呼び掛けをした成果があり、地域の多くのボランティアの方に草刈り等の支援をいただいた。
- ・児童のおじいちゃんやおばあちゃん・地域の皆様に来校していただき、学校の様子を見ていただいた。
- ・朝の登校指導では、横断歩道付近に立っているだけでも車のスピードを落としてくれた。
- ・あいさつ運動では、ひと月の目標を決めながら取り組むことができた。

## ＜課題＞

- ・あいさつ運動では、児童の声が小さくて元気がないのが気になった。児童への意識づけが必要である。
- ・年に2回の美化活動を計画しているが、定期的に回数を増やす必要がある。また、一部の人に負担がかかっているのではないか。
- ・美化活動は、P数等の人手の減少や軽トラを持っておられる方が少なくなってきた。児童も一緒に美化活動をやってみてはどうか。
- ・通学路の除草作業が必要である。
- ・協働活動に関わるボランティアの組織を再構築する。

## ＜次年度への志向＞

- ・児童が元気よくあいさつをするような工夫改善が必要である。
- ・子どもを交えて地域の方や保護者等と一緒にできそうなことを協議する機会をつくる。
- ・講話等により、子どもたちにあいさつがなぜ必要なのかを考えさせ、主体的なあいさつができるようにする。
- ・読み聞かせ等で学校に行く機会があったときは、せっかく学校に行けたのだから終わった後に窓ふきやちょっとした美化作業をしてもよい。

## 学校ごとの協議（本年度の成果と課題及び次年度への志向）

- ◎ 生徒に身につけさせたい資質・能力は  
三つの力（主体的挑戦力・夢実現力・絆構築力）であり、  
この3つの観点から成果・課題・次年度への志向を考える。

## ＜成果＞

- ・生徒へのアンケートで、学び合う学習が楽しいが9割越・分かるが割を超えた。
- ・2年生の学力は、県平均を超えることができなかつたがさが縮まってきた。
- ・地域の方からの学びや見守り・応援があり、生徒の自身につながった。

例 吹奏楽部は、町のいろんな行事でも演奏させてもらっている。

中学校の「町を喜ばせ隊」には、町の行事への参加や主体的な活動をさせてもらっている。

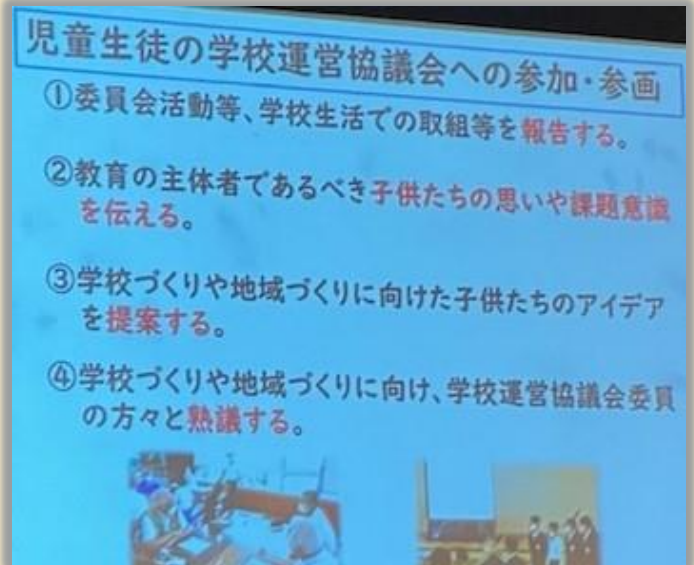
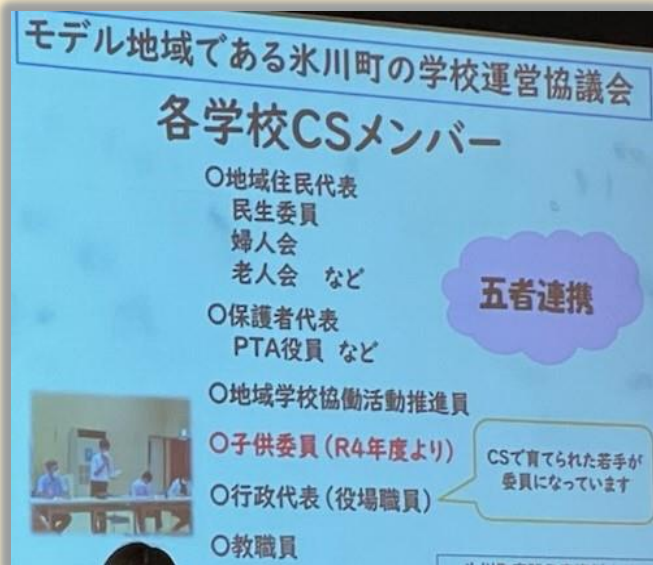
- ・生徒アンケートでは、休み時間などにリラックスできるが9割ぐらいで、多くの生徒が安心して学校生活を送っている。
- ・職場体験を通して、将来の方向性を考えることができた。
- ・タブレットを活用した学習によって主体的な学習に取り組んでいた。
- ・生徒が自分たちで校則の変更を行うことができた。

## ＜課題＞

- ・生徒一人ひとりへの適切なアドバイスを考える。
- ・自己肯定感がまだ高いとはいえない。
- ・30日以上欠席者が22名もいる。また、1日も登校できていない生徒が4名もいるので、1日でも学校に来れる取組みが必要である。そのためにも、生徒通しのつながりや生徒自らに自信が持てる環境づくりや対策が望まれる。また、人前で自分を表現することが苦手で適応できず学校に行けなくなった生徒もいるので、個に応じた指導は欠かせない。

## ＜次年度への志向＞

- ・協議の柱Bに取り組む。
- ・タブレット端末の使い方を深める。
- ・自己表現力を高めるためにも、生徒の行事等への参加を参画にする。
- ・職場体験学習等を通して、学習の大切さを伝える。
- ・欠席が多い生徒が1日でも多く学校に来れるような取組みを生徒と一緒に考えていきたい。



今日、この会では学校ごとに成果と課題そして来年度への志向まで話し合いがなされました。PDCAサイクルに乗せた協議、南関町は軌道に乗り、先進的な取組みをされています。

会議の中で、「子どもが主体に」とか「子どもをお客さんにしない」と聞こえてまいりました。教育長からも「子供の姿が見えるようにしてほしい」というお話もありましたので、学校運営協議会への子どもの参加について少し説明させていただきます。

子どもの学校運営協議会に参加については、先ず委員会活動やこれまで自分たちがやってきたこと・頑張ってきたことを報告する。次に地域学習の中で自分たちが課題に思ったこと・こうしてみたいという思い・町のために考えたことの提案を、子どもから出てくるようにすることが次の段階になります。最終的には、子どももこのような会に入って一緒になって熟議をしていくという段階まで行ければと思います。子どもたちが課題意識を持って提案したことが地域学校協働活動によって実現されれば、子どもたちも達成感を味わえます。

玉名管内の学校でも給食の時間から昼休みにかけて児童会のリーダーが学校運営協議会へ参加しプレゼンしている学校や5時間授業の日の放課後に児童会の代表を学校運営協議会に参加している学校・土曜授業の時に実施している学校もあります。なかには提案だけではなく熟議まで一緒にされている学校もあり、年度末の会にも参加し反省等の報告や次年度への方向性の協議にも加わっている学校もあります。

県内には、地域住民や保護者・家庭・教職員・行政などの代表や地域学校協働活動推進員・そして本年度からは子ども委員も位置付けられ、学校運営協議会自体が五者で行われている学校もあります。

南関町でも、今までのかかしコンクールやフィールドワークに、子どもの案をもう少し入れていくと子どもが参加しやすいのではないのでしょうか。既存の活動プラス子どもの案を子どもが学校運営協議会で大人に伝える場を設けることが大切かと思えます。

子どもにとって地域のいろいろな人・物・場所との多くの出会いが達成感・自己有用感を高め、自分たちが提案したことが実現すれば更に伸ばされ子どもたちの意欲や将来に繋がっていきます。

「地域学校協働活動とは、**地域**と**学校**が**協働**する**活動**です。」ということを確認し、今後とも活性化に向けできるところから実践をお願いします。